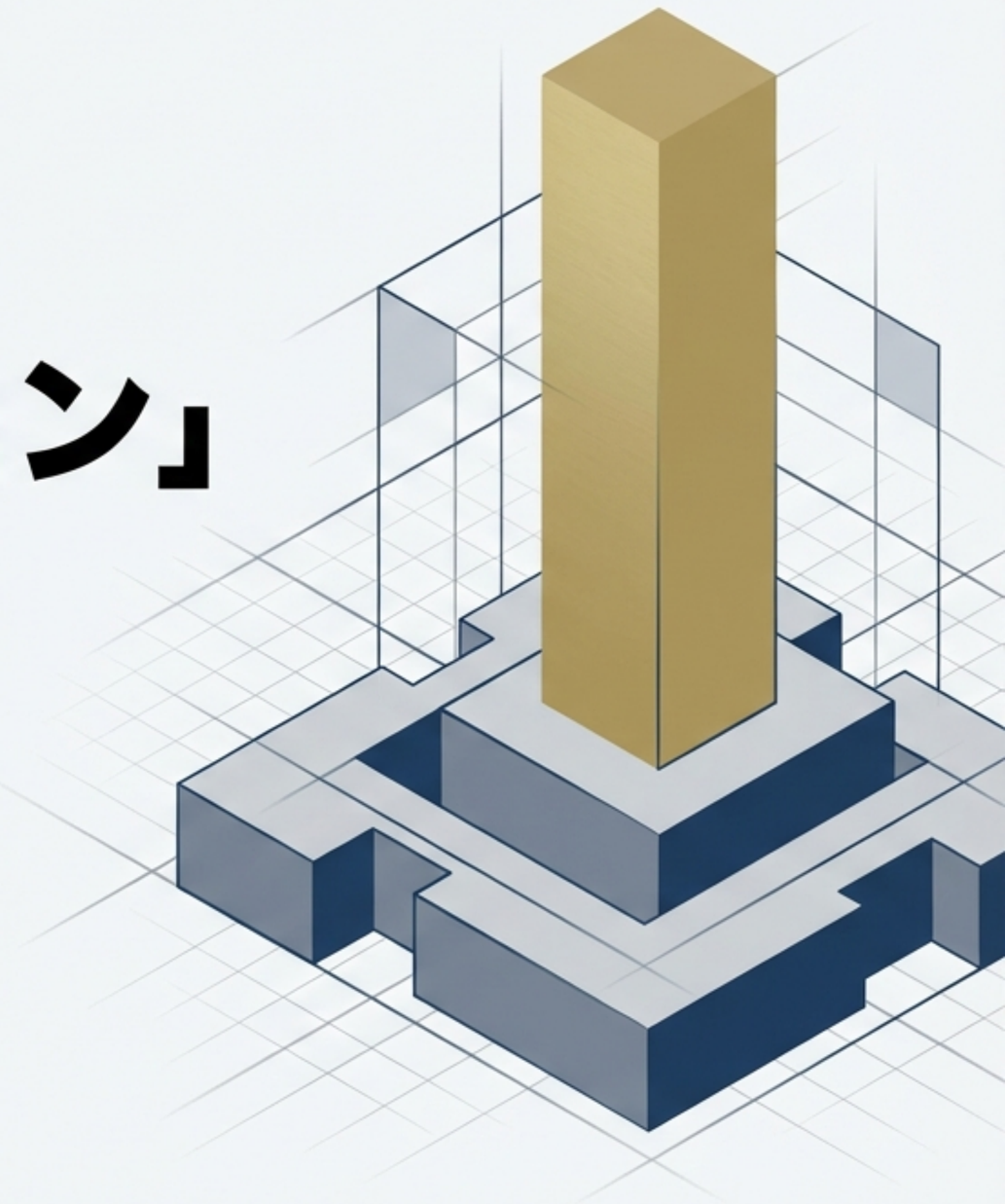
B型事業所のための「収支シミュレーション」実装ガイド

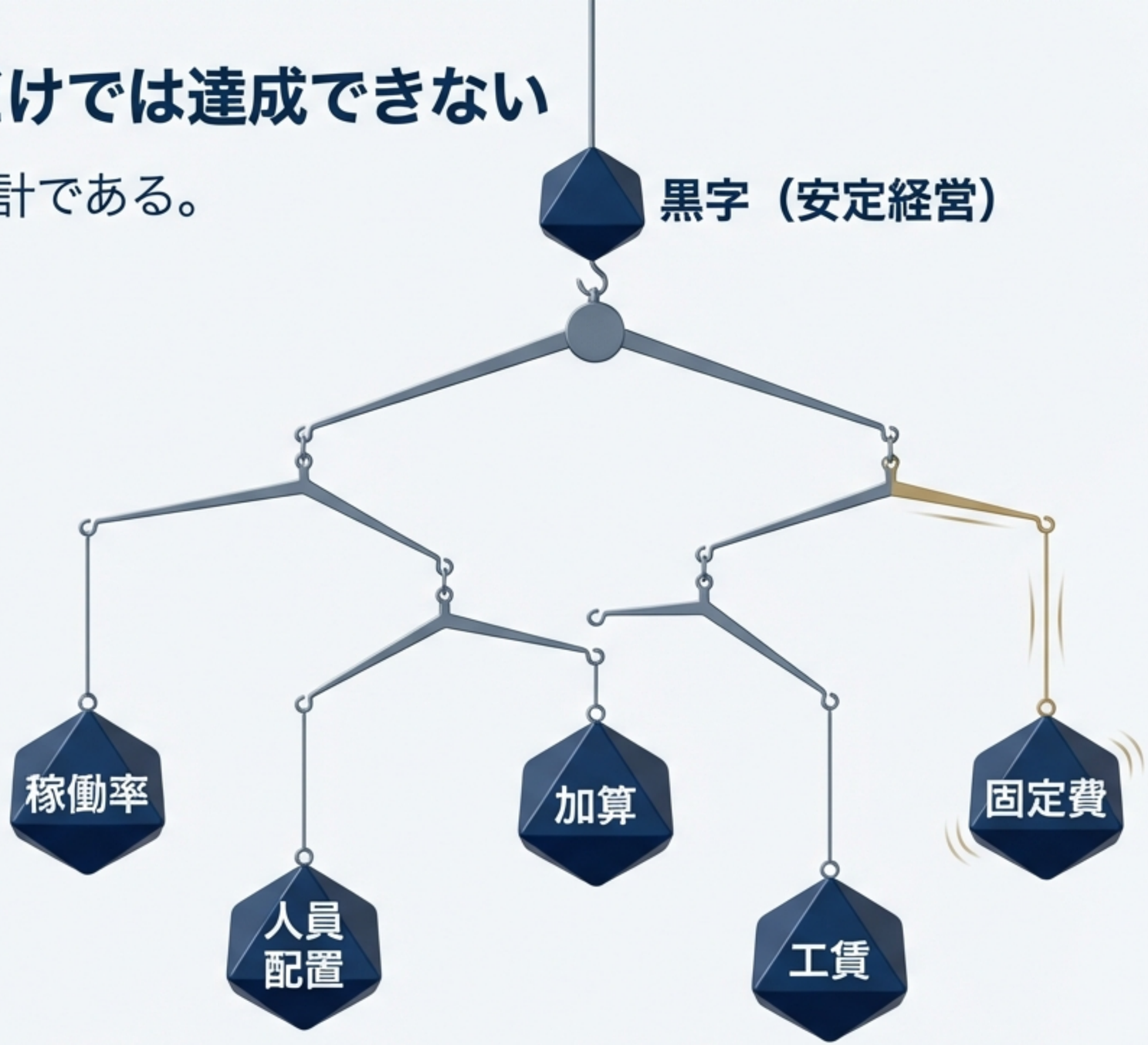
～「単月利益」を追う経営から「構造把握」の経営へ～



NotebookLM

黒字経営は「売上増」だけでは達成できない

経営は複雑な要素のバランス設計である。



NotebookLM

「なんとなく大丈夫」が崩れる3つの瞬間

1. 採用強化時
人件費増加の回収計画が不十分

2. 稼働率低下時
固定費吸収ができず赤字化

3. 加算変動時
代替施策が準備されていない



「予算と実績の差異分析が弱い」「施策の収支影響が見積もれない」事業所は、これら環境変化の直撃を受けます。

NotebookLM

結論：結果を追わず、「構造」を把握する

Before: 「単月利益」の数字だけを見つめる



After : 収益構造全体を俯瞰しコントロール

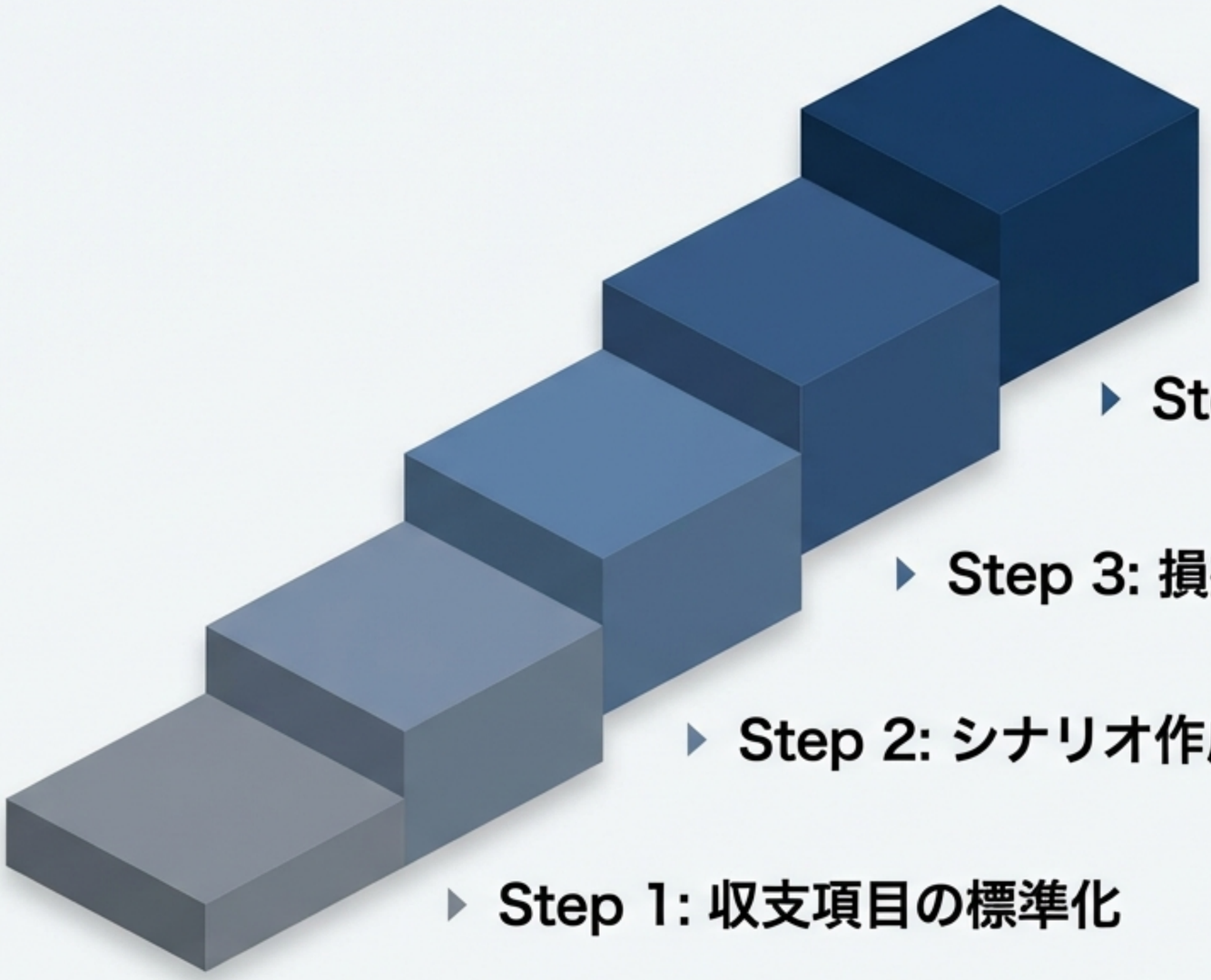


構造把握による先手経営の3本柱

1. 主要指標を固定する　2. 複数シナリオで検証する　3. 月次で実績差分を追う

NotebookLM

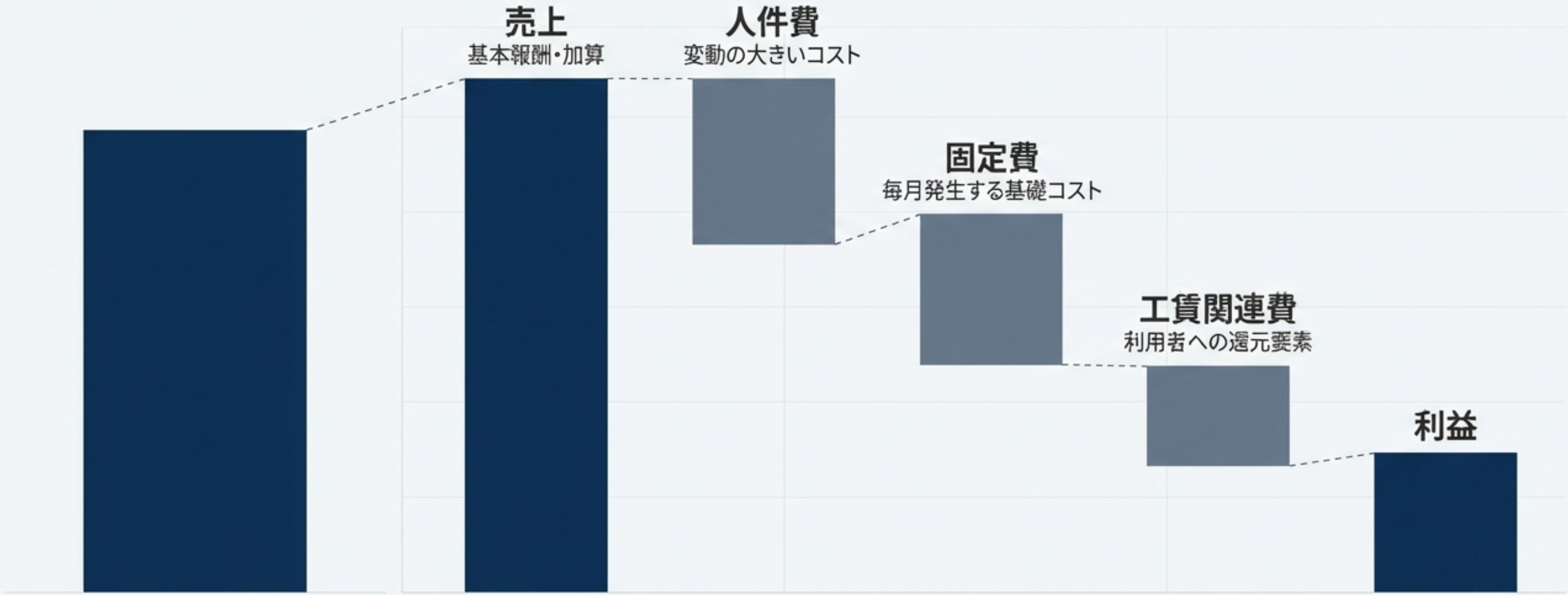
実装手順：収支シミュレーション導入の5ステップ



- Step 5: 改善施策の意思決定
- Step 4: 月次実績との比較
- Step 3: 損益分岐点の把握
- Step 2: シナリオ作成
- Step 1: 収支項目の標準化

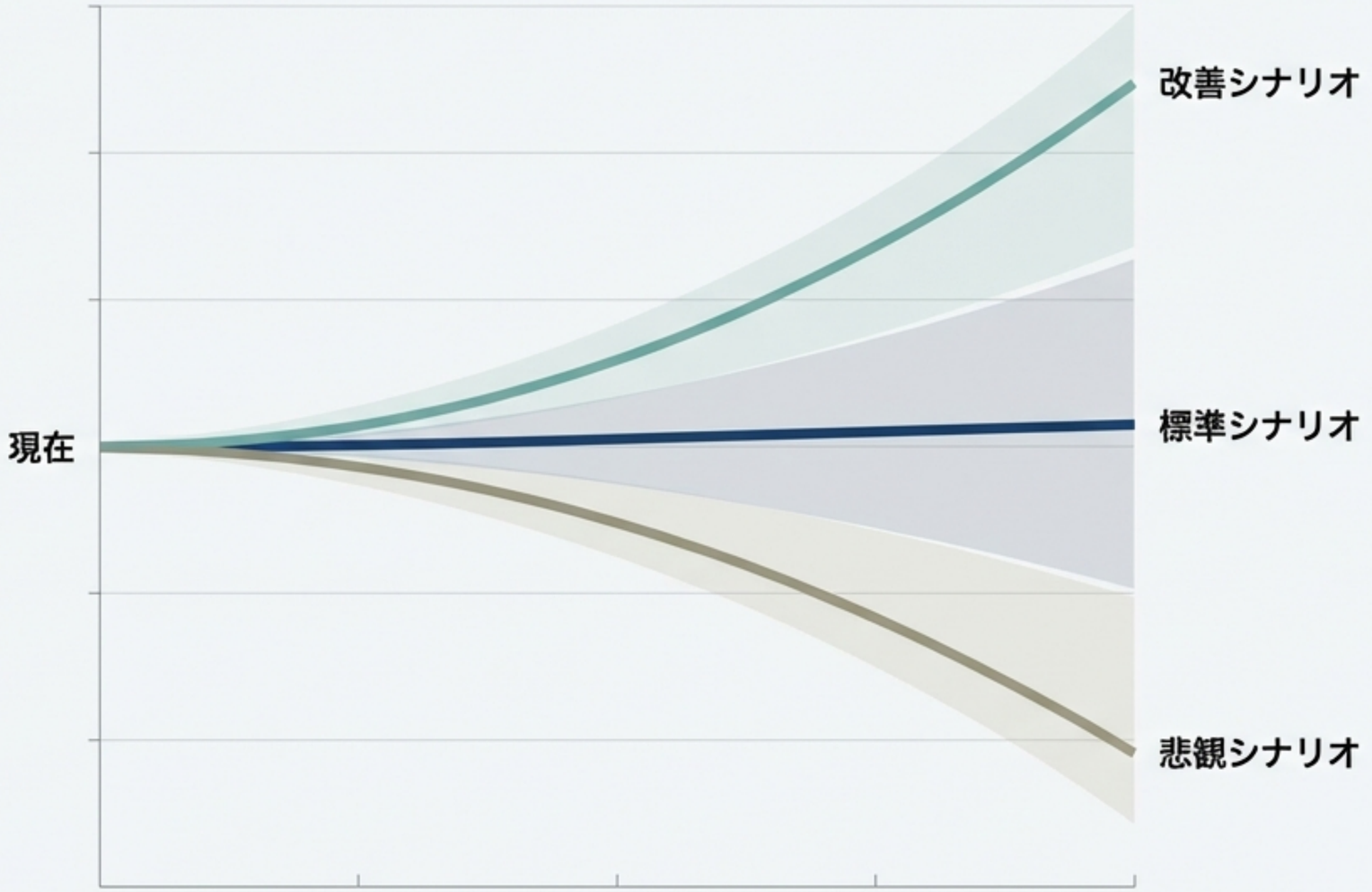
NotebookLM

Step 1. 収支項目を標準化し、構造を可視化する



NotebookLM

Step 2. 変化に備える「3つのシナリオ」を設計する



シナリオを分岐させる3つの主要変数：

- 利用者数
- 稼働率
- 単価

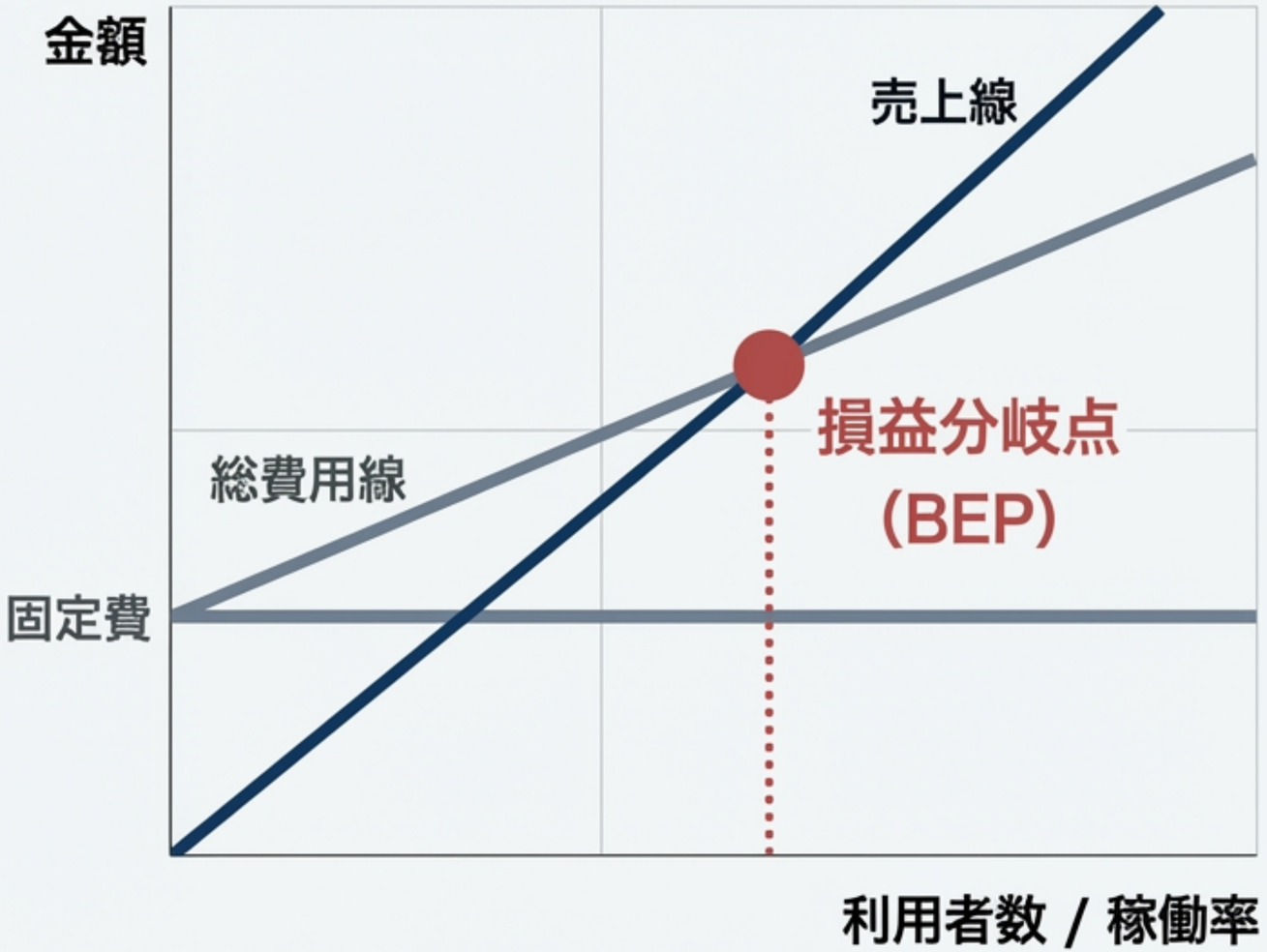
これらを変数化して予測を立てる

NotebookLM

Step 3. 経営のレッドライン「損益分岐点」を引く

警戒ラインの設定

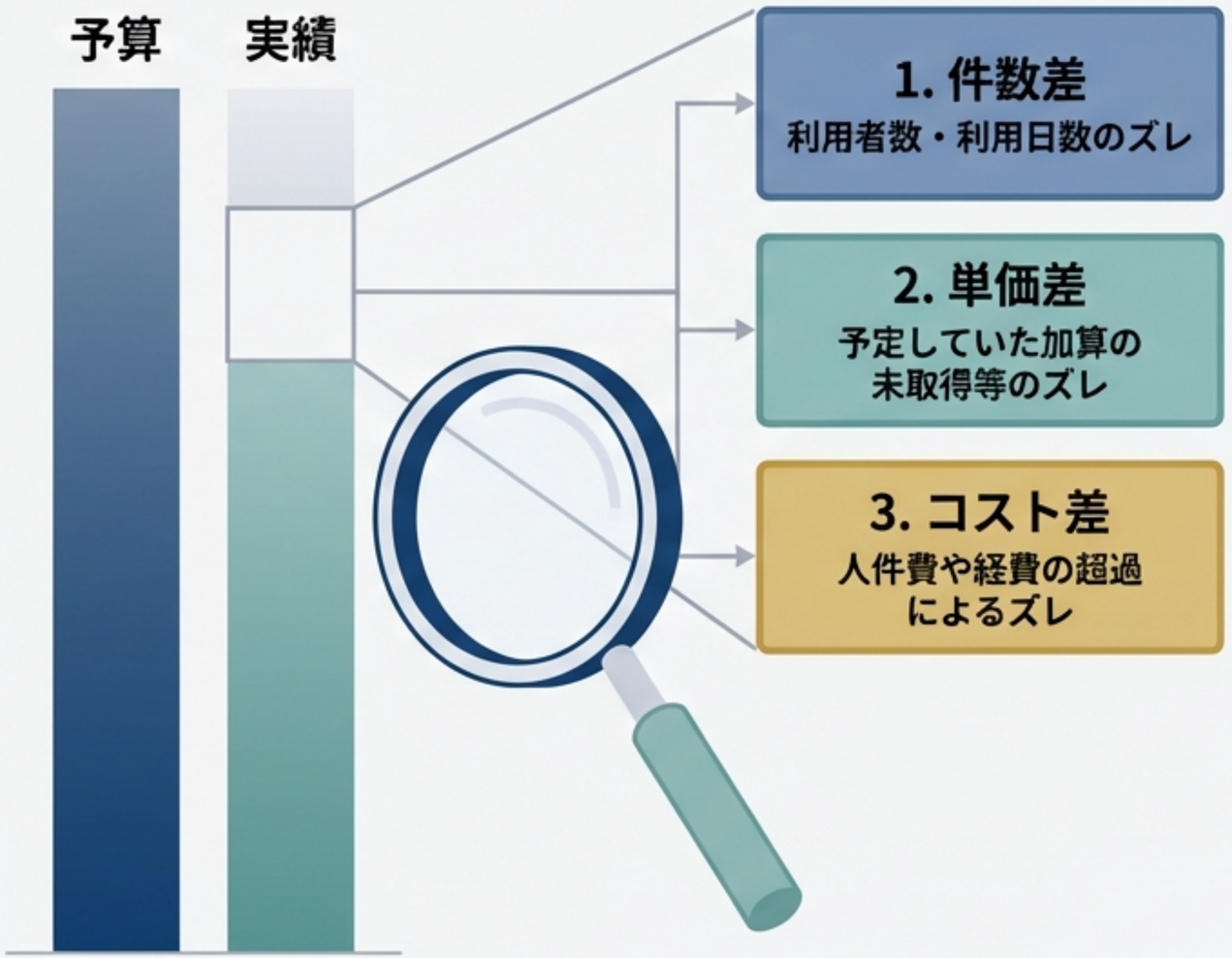
- 最低稼働率の明確化
- 必要利用者数の明確化



NotebookLM

Step 4. 月次実績とのズレを「3つの差分」に分解する

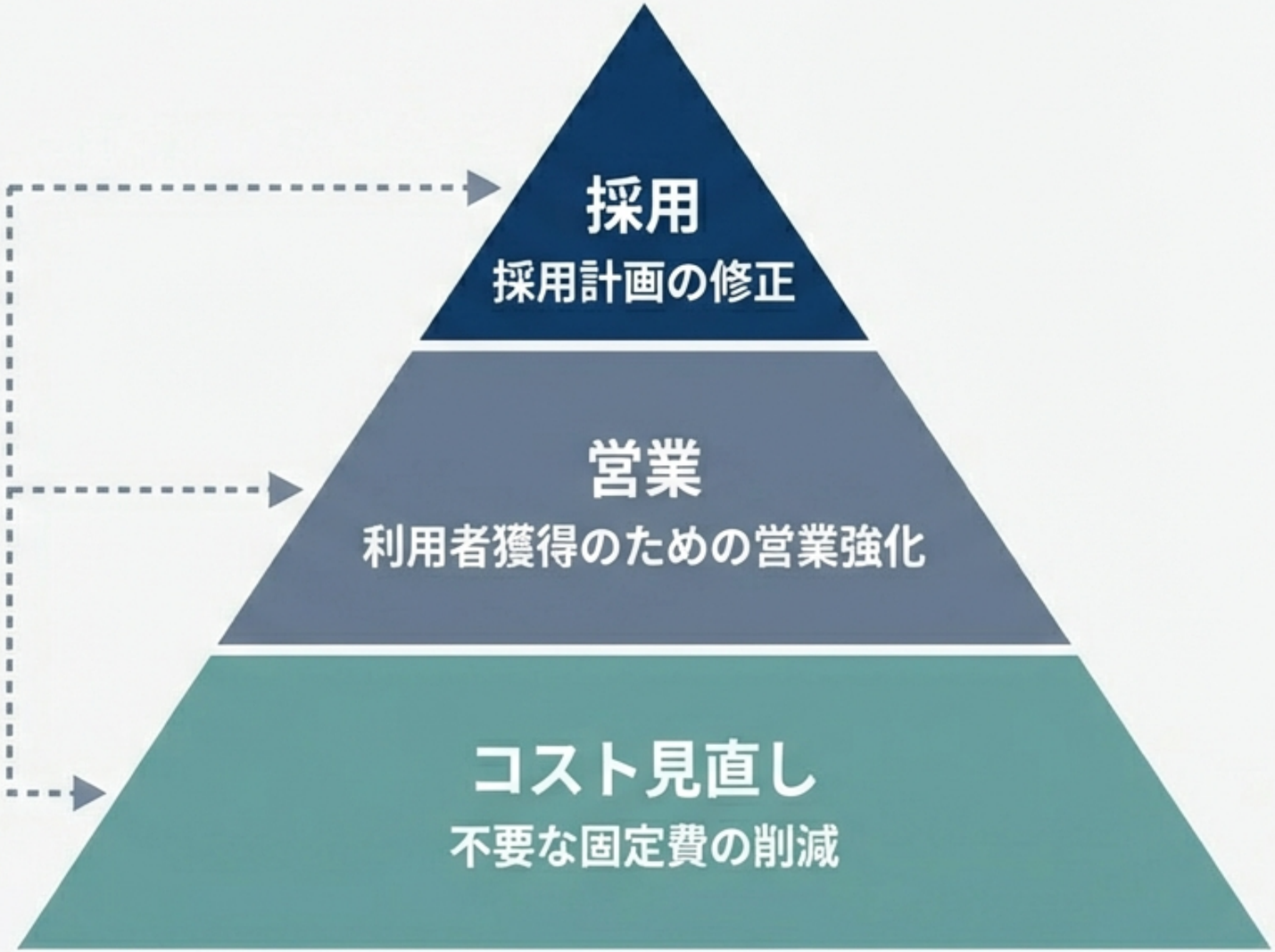
どこに問題があるか (Where) を特定しなければ、
正しい対策は打てない。



NotebookLM

Step 5. 差分に基づき、改善施策を意思決定する

分析結果に基づき、
優先度付きで実行。



NotebookLM

ケーススタディ：AH事業所の経営変革

実施内容

- 三段階シナリオ導入
- 損益分岐点の可視化
- 月次差分会議の定例化



導入前の課題

- 単月で黒字でも四半期で赤字化

導入後の変化

- 早期是正が可能に
- 赤字月の発生頻度が減少

成功要因：実績確認を単なる会計作業から、未来を変える経営判断へと転換したこと

NotebookLM

よくある3つの失敗パターンと回避策



失敗: 予算を年1回しか見ない → 

回避策: 月次差分分析の固定化
（変化対応の遅れを防ぐ）



失敗: 売上のみ重視する → 

回避策: 利益率の同時管理
（コスト増による利益圧迫を防ぐ）



失敗: 悲観シナリオを作らない → 

回避策: 最低ラインの事前準備
（突発変化への脆弱性をなくす）

NotebookLM

運用の見える化：監視すべき3つのKPI

KPI 1



計測頻度：月次
目標：設定値以上

KPI 2



計測頻度：月次
目標：目標稼働率達成

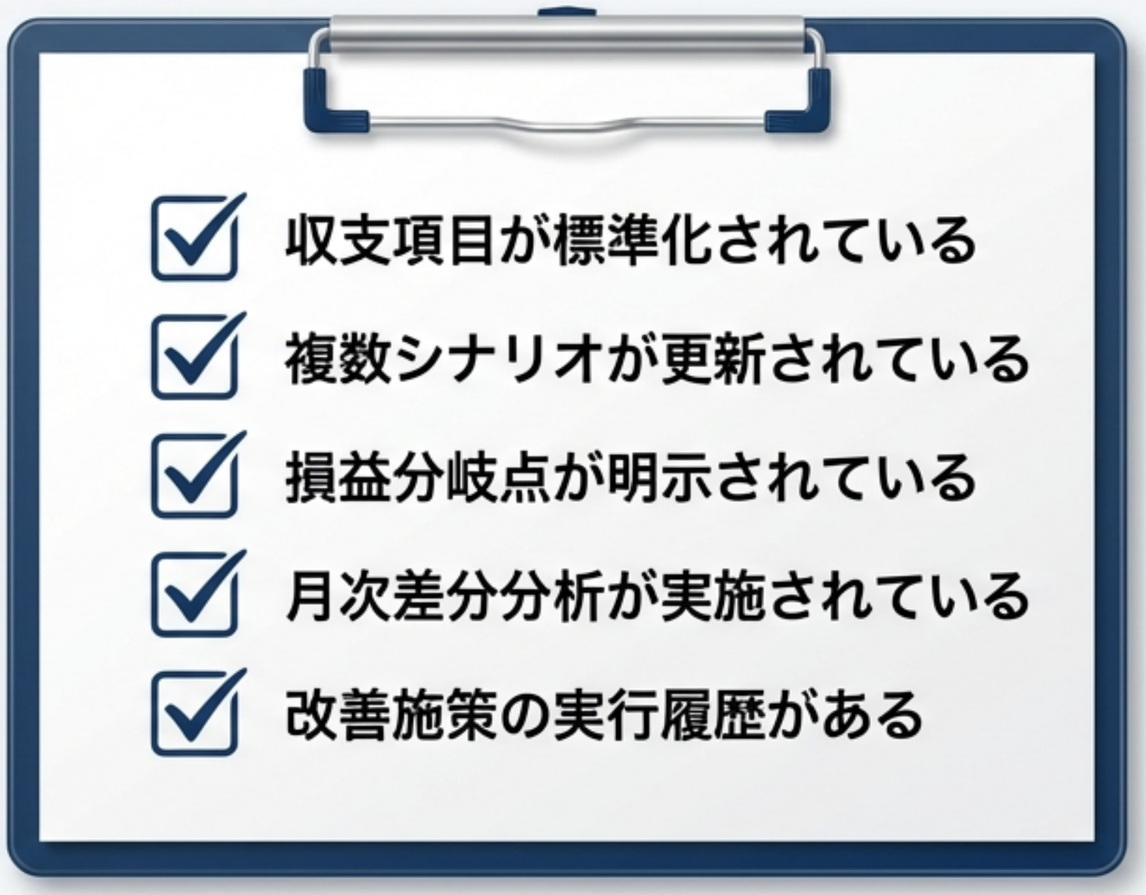
KPI 3



計測頻度：月次
目標：90%以上
※発生した差分に対する改善アクションの完了割合

NotebookLM

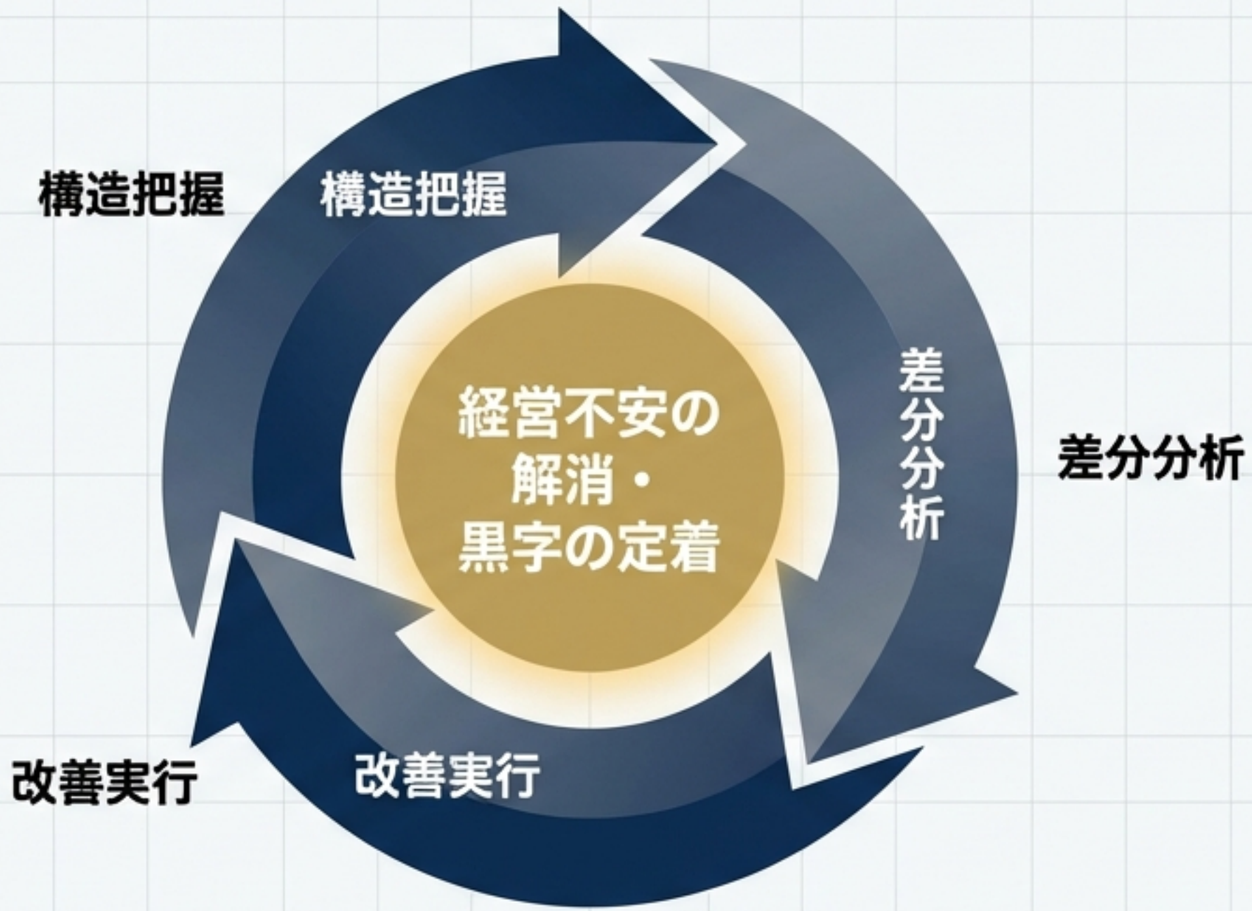
監査・品質チェックリスト



※障害福祉サービス報酬関連資料、障害者総合支援法、会計・請求関連通知等の法令・ガイドラインに準拠した運用を徹底すること。

NotebookLM

まとめ：黒字経営の再現性を高めるサイクル



収支シミュレーションは単なる計算ではない。経営不安を減らし、変化の激しい環境下で黒字経営の再現性を高め続けるための「最強の実務」である。

NotebookLM